

令和7年度地区懇談会（新生地区） 議事録（概要）

令和7年10月29日（水）18:00～19:30

コミュニティセンター新生虹の家 出席者24名

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項についての懇談：

(1) 大津波時におけるJR線路横断避難個所の増設の進捗状況は

概要説明：新生地区連合町内会

- ・ 昨年までは、JR線路を横断し新生虹の家敷地内の柵に開閉扉を設置する方向で進めていたと思うが、新生町2丁目の新生団地自治会そばに避難通路を設けることになった理由をお聞きしたい。
- ・ 新生町内会そばの避難通路設置は、なくなったのかどうか。なくなっていないのであればいつ頃決まるのか情報をいただきたい。

回答：総務部

- ・ 登別市とJR北海道は、市内10か所のJR線路横断候補地を協議しており、その中には新生団地付近と新生虹の家横の場所も含まれている。
- ・ まずは課題が比較的少ない「若草小学校グラウンド裏付近」と「新生団地付近」の2か所をモデルケースとして先行整備し、設計を進めながら運用上の課題として避難路のあり方、夜間照明、門の周知方法などをJR北海道と協議していく。
- ・ 先行する2か所については、令和7年6月に補正予算を計上し、令和7年度に用地測量と実施設計、令和8年度に本格工事を行う予定である。
- ・ 虹の家付近の線路横断についても、先行2か所で得た協議内容を生かしつつJR北海道と引き続き協議するが、現時点では具体的な時期はまだ示せない。

意見：新生地区連合町内会

- ・ 津波がいつ来るかわからないため、仮設でもよいので早急に避難用通路を整備してほしい。
- ・ 本格的な整備は仮設通路の後でもよいが、現状ではこないだのカムチャツカ沖地震で10～12m級の津波が来ていたら通路は使えなかったと感じている。
- ・ この周辺はイタドリの草木が大きく伸び、今年は特に自分の身長の数倍ほどで、通路はおそらく使えない状態だったと思う。
- ・ 先日の地震での避難の際に、その不便さと危険性を強く実感し、早く対応してほしいと痛感した。

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項についての懇談：

(2) 2丁目町会に会館と避難タワーの設置を

概要説明：新生町2丁目町会

- ・ 2丁目町会に会館がない。民家の空き家の情報も途切れている。民家は構造上会館には適さない。空き倉庫の方が望ましい。
- ・ 大津波避難時の避難タワーと会館を立体的に「わらべ公園」に造れないか。

回答：総務部

- ・ 津波避難タワーについては、7月30日のカムチャツカ沖地震に伴う津波警報後の各地域との意見交換会でも、多くの意見が出されている。
- ・ 机上の計算上は徒歩での避難が可能とされているが、高齢者・障がい者・乳幼児など、歩行避難が難しい人がいる現状も認識している。
- ・ 津波避難タワーは南海トラフ地震対策として四国・近畿で整備が進み、東日本大震災以降は東北・関東にも広がり、北海道でも釧路町や浜中町などを中心に建設計画が進んでいる。
- ・ 登別市としては津波避難タワーの研究を始めたばかりであり、用意した資料を基に説明する。

回答：市長

- ・ 津波避難タワー整備の対象は、「4つの建物を中心に半径500m以内に山がない区域」で判断されており、釧路町・釧路市・白糠町のような平坦で危険な地域が優先されて予算配分されている。
- ・ 登別市の栄町から新生望洋団地間は直線約700mで、半径350mとなるため現状の基準上ここに津波タワー設置は想定されていないが、鉄道を横断できるかどうか、JRが横断を認めるかが「必要性」の判断に大きく関わっている。
- ・ 政治的な力関係による差ではなく、危険度に基づく国の支援であると理解してほしい。

質問：新生町2丁目町会

- ・ 下水蓋が石で非常に重く、持ち上げられないため掃除ができず、大雨時に溢れるなど問題が起きている。
- ・ 新生町4丁目の公園付近の蓋がコンクリート・アスファルトで固定されており、抜けない状態である。
- ・ 最近見かけたような、手軽に持ち上げられる鉄製の枠やグレーチングに一部でも替えて、掃除しやすくしてほしい。
- ・ 可能かどうか、部分的なグレーチング設置などの具体的な対応を確認したい。

回答：都市整備部

- ・ 道路脇のトラフの蓋は、車重に耐える構造で重いため、一度現場を確認したいので場所を教えてください。

回答：市長

- ・ ご自身でやる気持ちはありがたいが、確実に済ませるなら市役所に対応してもらうのがよい。
- ・ 背景として、昭和期は市が対応しなかったが平成以降は対応するようになり、昔の応急処置やゴミの詰まりで蓋がさらに外れにくくなっているため、無理に自分で外そうとしない方が安全で確実である。

6. 市からの情報提供事項

(資料4) 新しい市役所本庁舎の整備について

説明：総務部

- ・ 資料に基づき説明を行う。
- ・ 質疑なし

6. 市からの情報提供事項

(資料1) 津波発生時の対応について

説明：総務部

- ・ 資料に基づき説明を行う。

質問：新生町3丁目町会

- ・ 10か所協議中とのことだが、最終的に10か所になることを期待してよいか。

回答：総務部

- ・ 現時点で「絶対ダメ」とされた場所はない。
- ・ ただし解決すべき課題はあり、例として線路のカーブしている場所はJRの安全運行の観点で対応が難しく、現在協議中である。

質問：新生町3丁目町会

- ・ 全部開通するのにどのぐらいかかる見込みか。

回答：総務部

- ・ 現状ペースでは年に2か所ずつしか進まず時間がかかってしまうので、まず今回2か所を実施して、JRとのルールを整備する方針である。
- ・ 一度作ったルールを他でも使えるようにして、作業のペースを上げて進めたい。

意見：市民（町内会不明）

- ・ どのようにして安全な通路にするか。

回答：総務部

- ・ JRの方にも現地を見てもらっており、側溝の部分はしっかりとした工事をしなければならないという認識である。

意見：市民（町内会不明）

- ・ 新生団地に住んでいるが、津波避難通路がなぜ新生団地の近くを通ることになったのか、決定に至った経緯と理由を知りたい。
- ・ どんな事情でそこに決められたのか、他の案が却下されたのかを確認したい。
- ・ 避難通路の線形について、線路をどう渡るのか、新生団地と線路沿いの道路とどのように接続されるのかを具体的に知りたい。

回答：総務部

- ・ この場所が選ばれた理由は、海側・山側の渡る場所が市の土地で新たな用地取得が不要であり、線路が直線で工事に適しているためである。
- ・ 道路からJR用地に入る場所に門を設け、災害時に開けられる扉を設置する計画で、当初から「蹴破り式」で検討している。
- ・ 山側の出口にも同様の門を設ける予定である。
- ・ 線路のある場所は工事が認められず、線路手前まで整備する形となるため、線路内は砂利のまま起伏が残り、それ以上の工事はできないということで聞いている。

意見：市民（町内会不明）

- ・ 避難時にどの程度滞留できるかが問題で、特に近隣の寺には保育の子どもを含め200名超が集まることもあり、津波時にお寺が何日持つか把握したい。
- ・ 現状は希望の家や5丁目公園、民間のガレージ等で一時的に受け入れているが、夏場なら3～6時間は可能でも冬は難しく、7月30日は昼に皆帰っていて意味がなかった。

回答：市長

- ・ 基本はまずは数時間いてもらい、亀田公園側に行き温泉街のホテルに行ってもらうのか、室蘭工業大学側に行ってもらうのか、決めなければならない。
- ・ これからルールをしっかり決め、どうやって伝達するかを徹底したい。
- ・ 12月に叩き台を出し、1～3月に意見を集めて令和8年4月までに修正し、正式にやりとりしていきたい。

意見：市民（町内会不明）

- ・ 高野台団地に上がってくる人がいるが、車を止めるスペースがなく、個人宅前に数珠つなぎになった。止められる場所があるなら市から報告してほしい。

回答：市長

- ・ 今は交通麻痺になるため、そういったアナウンスはしておらず、歩いて避難すること

を推奨していたが、誰もがそれを忘れて車での避難の話になってしまった。

- ・ 自力で歩いて行くということを忘れないようにしてほしい。それから共助と公助が働くようなことをやっていきたい。

意見：市民（町内会不明）

- ・ 7月30日の避難は、斜面が急で荷物を背負って徒歩で上るのは極めて困難で、実際にはほとんどの人が車で逃げ、徒歩はほとんどいなかった。
- ・ 町内会は93あり、それぞれ避難計画が異なっていると思う。
- ・ 当日最も困ったのはトイレ問題で、男性はよいが女性は困っていた。
- ・ 高齢者ばかりなので、車なしで避難することは考えられない。

回答：市長

- ・ 一番最悪なのが自宅の前から歩いて避難することなので、今後個別避難計画を話し合っていきたい。
- ・ 反復練習が重要だと考えている。

意見：望洋町内会

- ・ 今回の津波は夏で幼稚園児でも徒歩避難できたが、冬場は四駆でないと上がれず、町内でロードヒーティングがある道路は1か所で一部のみなので、避難場所として町内を想定するならロードヒーティングの整備を強く要望する。
- ・ 市は防災警報などをLINEで配信しており、町内の掲示板掲示をやめてコードを2か所に貼って登録を促しているが周知が十分でない。
- ・ 先日の防災勉強会でも市担当者からLINE周知の話は出なかったため、市に対してLINEのPR強化と、勉強会等の機会を使った登録促進を求めたい。

回答：市長

- ・ 伝達にLINEやXを優先する方針で、写真や図表なども送れるため最も速い手段である。市が段階的に支援するので、登録をしてほしいと思う。
- ・ 市のLINEは登録すれば個人のLINEにも配信される。ショートメールは電話番号だけで文字情報を送れる代替手段が可能で、LINEが使えればほぼカバーできる。
- ・ ロードヒーティングは今後の計画で、高台や避難に直結する路線など「災害時の価値が高く、先へ続く確実な通行性がある道」から優先に検討する。すべての道路に導入するわけではなく、予算や優先順位で選定するため導入時期は未定である。
- ・ 補助金の対象になれば国から交付・助成が得られる可能性があるが、全路線が対象になるとは限らない。現状は十分な予算がなく、住民にはロードヒーティング実現まで待ってほしい。

回答：総務部

- 各地区皆さんの意見を聞きながら、12月いっぱいをめどに対策を再検討し、来年の地区懇談会までに議論の叩き台を作る予定である。
- 7月30日の地震・津波では被害がなかったため車避難や避難所が利用できたが、道路陥没や線路不通など最悪の事態も想定して対策を考える必要がある。
- 避難タワーの有無や、歩行困難な人への救助対策、車での避難など具体的な対策について市民の意見を取り入れながら検討していきたい。

その他

- なし